

# クラウドの時代に中堅企業向け市場での成功、デジタルトランスフォーメーションそしてセキュリティを実現するには

調査の結果が示すとおり、クラウド戦略を策定すること、IT管理を一元化すること、そしてセキュリティに重点を置くことが重要な成功要因です



あらゆる規模の組織においてクラウドコンピューティングの採用が成熟するに伴い、ますます多くの中堅企業がビジネスの敏捷性とパフォーマンスを向上させるためにパブリッククラウドとプライベートクラウドの両方を使用するようになっています。

IDGが行った新しい調査では、中堅企業にとってハイブリッドクラウドの成功の鍵となる要素が明らかになりました。**統合ツール**を使用してクラウド環境とオンプレミス環境を管理するハイブリッドクラウドユーザーは、次のようなさまざまな重要なメリットを享受できます。

- 複数のセキュリティ関連業務に費やされる工数の削減。
- セキュリティイベント数とリスクを最小限に抑制。
- 運用の迅速化。
- インフラストラクチャコストの削減。
- 収益性の向上。
- 生産性の向上。

## ハイブリッド クラウドがトランスフォーメーションを後押し

今日の激しい競争の中で、中堅企業は IT 環境を急速に変革し、敏捷性を高める手段としてクラウドに着目するようになってきました。ただし、すべてのクラウドが同じというわけではなく、環境をパブリック、プライベート、ハイブリッド、およびマルチクラウドなどに統合するなかで混乱を招く可能性があります。ハイブリッド クラウド アプローチとは、パブリック、プライベート、およびオンプレミスの複数のクラウド インフラストラクチャ ソリューションを混在させて導入することを意味しますが、多くの場合、これらの導入環境は総体的には管理されていません。ただし、一貫性のあるハイブリッド クラウド オペレーティング モデルでは、これらのコンポーネントが単一のシームレスな管理システムの下で統合され、より効率的な運用と最大限のセキュリティが実現し、インフラストラクチャ全体が合理化され、シンプルになります。

中規模組織（従業員数 100 ～ 999 人）の IT 意思決定者を対象に実施された 2019 年 9 月の IDG MarketPulse グローバル調査では、回答者の 80% がワークロードをハイブリッド クラウドに導入していると答え、残りの 20% はワークロードをハイブリッド クラウドに導入したいという意向を示しています。

クラウド環境とオンプレミス環境間で統合管理ソリューションを活用する一貫したハイブリッド クラウド エクスペリエンスは、クラウドを導入する中堅企業にとって真の「理想の境地」であり、他のクラウド導入アプローチをはるかに超えるビジネスおよび IT のメリットをもたら

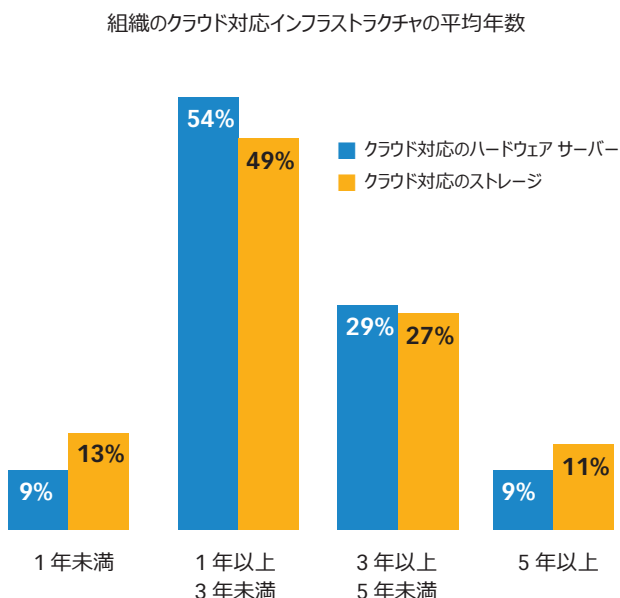
します。IDG MarketPulse グローバル調査の回答者のうち、クラウド環境とオンプレミス環境の管理に統一されたアプローチを採用していると報告した中堅企業の割合はわずか 11% でした。ただし、これら一握りのクラウド先駆者は、非統合型のクラウド環境を運用している他の中堅企業と比較して、以下のような重要な結果を生み出しています。

- セキュリティ管理に費やす工数を 27% 削減
- ライフサイクルのメンテナンスに費やす工数を 24% 削減
- セキュリティ侵害の解決に費やす工数を 22% 削減
- 脆弱なアクセス制御ポイントの数を 24% 削減
- インフラストラクチャ コストを 28% 削減
- 売上が 25% 増加

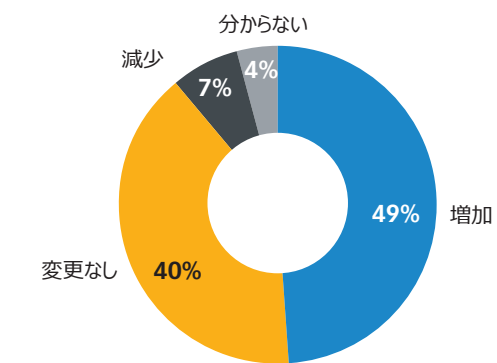
このデータは、ハイブリッド クラウドがデジタル トランスフォーメーションを実現するための不可欠なステップであることを示しています。中堅企業によるクラウドへの取り組みは、IT 支出計画に反映されています。

- MarketPulse の調査回答者の約半数（49%）は、今後 12 か月間にクラウド対応インフラストラクチャへの投資が増加すると予測し、平均 22% の支出増を見込んでいます。
- 現在のクラウド インフラストラクチャの支出レベルを維持することを見込んでいる回答者の割合も 40% に達しています。

図 1：クラウド対応インフラストラクチャ



クラウド対応インフラストラクチャへの投資で予想される変化 — 今後 12 か月間



投資は平均で **22%** 増加すると予想されています。

## メリットは理解できているが、戦略が必要

700 人の IT 意思決定者を対象とした IDG MarketPulse グローバル調査の目的は、中堅企業におけるハイブリッド クラウド採用の進行状況を調べることでした。この調査では、セキュリティ、ビジネス、および IT の成果を向上させる能力に対する、クラウド アクセラレーターまたはベスト プラクティスの影響を評価することに重点が置かれました。

コストの削減とセキュリティの強化は、ハイブリッド クラウド オペレーティング モデルがもたらす最大のメリットとして認識されており、41% の回答者が（ワークロードとアプリケーションの最適な導入による）コスト効率の向上を、35% がセキュリティの強化を挙げています。回答者はこれ以外にも、ハイブリッドのメリットとして以下の点も指摘しています。

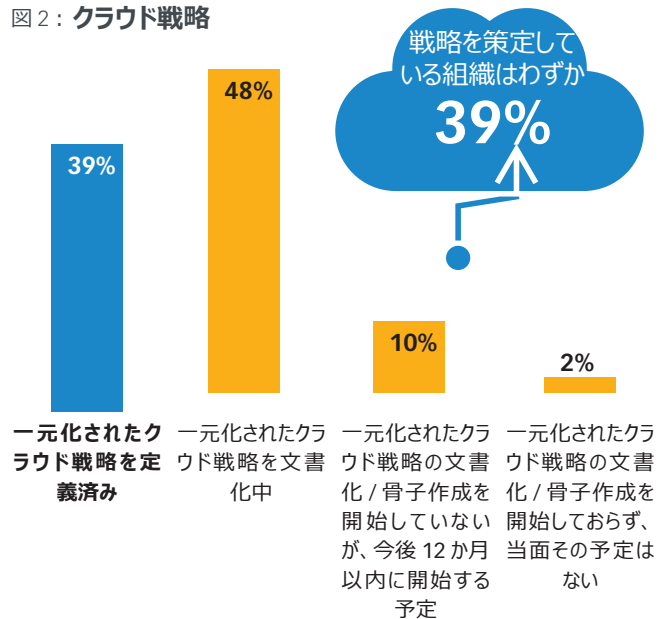
- 柔軟性の向上（35%）。
- ユーザー エクスペリエンスの向上（34%）。
- ディザスター リカバリー / フォールト トレランスの向上（31%）。
- ワークロードの移行がシンプル（29%）。
- オンプレミスのセキュリティ ベスト プラクティスを任意のクラウド導入環境に拡張することが可能（27%）。

ただし、包括的で一元化されたクラウド戦略、ロードマップ、そして最も重要である適切なツールがなければ、ハイブリッド クラウドのメリットとして認識されている前述の点を完全に実現することはできません。IDG MarketPulse の調査では、多くの中堅企業がこの点で苦戦していることが明確に示されています。ほぼすべての回答者がハイブリッド クラウドを導入している（または導入に興味がある）と述べていますが、半数以上が基本的に無計画で導入に踏み切っています。前述したとおり、調査対象の 700 組織のうち 80% がすでにハイブリッド クラウドを実行しているにもかかわらず、一元化されたクラウド戦略を策定していると答えた組織はわずか 39% にとどまっています。

## セキュリティの問題

セキュリティは、クラウドにどのワークロードを導入するかを決定する際に考慮すべき、もう 1 つの重要な優先事項です。実際、セキュリティに関する懸念は、長い間クラウド採用の妨げとなるか、企業の IT リーダーにクラウドの導入を再考させる原因となっていました。IDG MarketPulse の調査によると、回答者の 58% が平均 14 個のパブリック クラウド ベースのアプリケーションまたはワークロードをオンプレミスに戻し、39% がデータ ロスまたは忠実度に関する懸念を指摘しています。

図 2：クラウド戦略



### 有効であることが実証済みのデータ セキュリティ ベストプラクティスの欠落：

1. 機密データの暗号化。
2. インフラストラクチャ ハードウェアの更新。
3. 組み込みのセキュリティ機能を備えたサーバーの使用。
4. セカンダリ システムへのデータのバックアップ。

機密データを少なくとも 1 年間暗号化している組織の割合はわずか **44%** です。

ユーザーに影響を及ぼしたり、データを危険にさらしたりすることなく、インフラストラクチャを迅速にモダナイズして拡張できます。時間、労力、および複雑さが軽減されるため、ビジネスの革新にもっと集中できるようになります。

— 某調査回答者、

ハイブリッド クラウド アプローチについて

さらに、回答者の 91% は、クラウドに移行するアプリケーションまたはワークロードを決定する際の最優先事項にセキュリティを挙げています。その一方で、クラウド導入計画とセキュリティ要件のバランスを取ることが非常に難しいと述べている回答者の割合は 53%、やや難しいと述べている回答者の割合は 39% に達しています。

この調査では、複数の環境にわたってデータを保護する際に中堅企業が直面する 8 つの具体的な課題が浮き彫りになりました。その中でも特によく言及された課題は次のとおりです。

- セキュリティ モニタリングに費やされている時間とコスト (37%)。
- すべてのワークロードをバックアップして迅速にリストアする機能 (37%)。
- テクノロジーまたはネットワークのアップグレードの実行 (35%)。
- セキュリティとパフォーマンスの可視性 (32%)。

組織がベスト プラクティスに従わないと、これらのセキュリティ上の課題はさらに困難になりますところが、IDG の調査によると、1) 機密データの暗号化、2) インフラストラクチャ ハードウェアの更新、3) 組み

込みのセキュリティ機能を備えたサーバーの使用、4) セカンダリ システムへのデータのバックアップといったデータ セキュリティ関連のベスト プラクティスを完全に実行している回答者はごくわずかです。

実行されている可能性が最も高いセキュリティ対策はデータ暗号化ですが、その場合でも、少なくとも 1 年間機密データを暗号化していると答えた回答者の割合はわずか 44% です (3 ページの図 3 を参照)。さらに悪いことに、前掲の 4 つのデータ セキュリティ対策すべてを 1 年以上実行していると答えた回答者の割合はわずか 12% となっています。

効果的なセキュリティ対策を入念に実行している組織と明確な相関関係にある重要なポイントは、ハイブリッド クラウドの管理に単一のツールを使用していることです。機密データを 1 年以上にわたって暗号化していると答えた回答者の割合は、単一のツールを使用してハイブリッド クラウドを管理している組織の場合で 72% であるのに対し、統合管理を行っていない組織では 30%、ハイブリッド クラウドを導入していない組織では 40% となっています。その格差は他のセキュリティ対策でも同様でした (表 1 を参照)。

図 3: クラウドおよびオンプレミス環境におけるセキュリティ対策のステータス

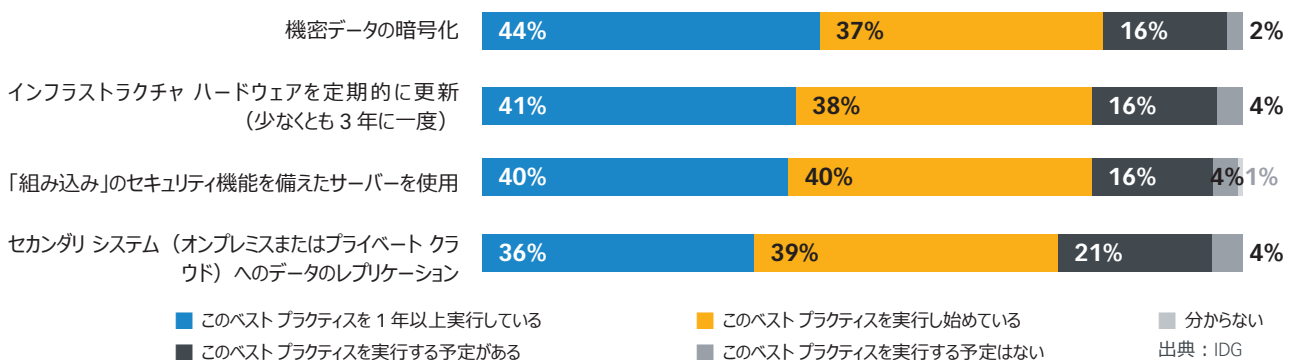


表 1：セキュリティの相関関係：1年以上実行しているセキュリティ対策の割合に見る、単一の統合管理ツールの使用の有無

1年以上実行しているセキュリティ対策	ハイブリッドクラウド — 単一の統合ツール	ハイブリッドクラウド — 統合管理なし	ハイブリッドクラウドなし
機密データの暗号化	72%	30%	40%
インフラストラクチャハードウェアを定期的に更新 (少なくとも3年に一度)	64%	31%	36%
「組み込み」のセキュリティ機能を備えたサーバーを使用	72%	23%	33%
セカンダリシステム（オンプレミスまたはプライベートクラウド）へのデータのレプリケーション	57%	25%	31%

## 統合管理の重要度と真のメリット 一貫性のあるハイブリッドクラウド

ハイブリッドコンピューティングとネットワーク環境を複数のツールで管理することに伴う複雑さを考えると、ハイブリッドクラウドのセキュリティ対策に全面的に取り組んでいる企業がごく少数であることは少しも不思議ではありません。多くの企業では、複雑なIT環境でデータ、アプリケーション、およびワークロードを管理するために必要となる無数のツールを使用できる社内のIT専門家が不足しています。多忙でリソースに制約のある中堅企業のIT部門は、一貫したハイブリッドクラウドエクスペリエンスを実現する統合ツールを使用することによって、さまざまなメリットを享受できます。

クラウドとオンプレミスに単一の管理ツールを使用していると報告した MarketPulse の回答者は、ハイブリッドクラウドが組織にもたらすビジネス面またはIT面の最大の利点として以下を挙げています。

- コスト効率の向上。
- 機密性の高いワークロードをオンプレミスに配置することによるセキュリティの強化。
- 必要に応じてワークロードを拡大または縮小する柔軟性の向上。

図 4：ハイブリッドクラウドについて認識されているビジネス面およびIT面の利点

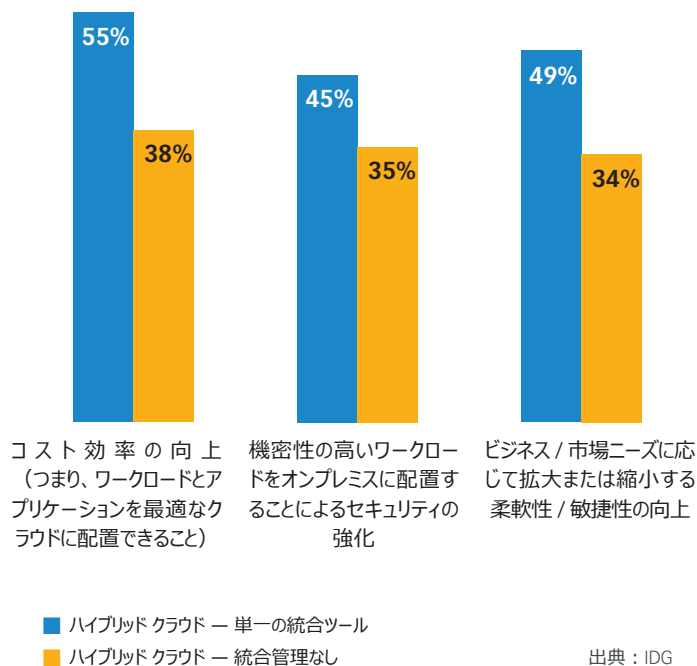


表 2：予想 — 二桁の喜ばしい結果

メリット	期待	REALITY (現状)
コスト削減	45%	59%
データバックアップの迅速化と容易化	36%	50%
レスポンスタイムの短縮	27%	41%
拡張性の向上	28%	41%

クラウド環境とオンプレミス環境を統合ツールで管理しているハイブリッドクラウドユーザーは、過去1年間でセキュリティ関連業務に費やす工数を削減できた可能性が大幅に高くなっています。単一のハイブリッドクラウド管理ツールを使用しているIDGの調査回答者の半数以上が、セキュリティの管理（55%）、セキュリティ侵害/攻撃の解決（53%）、セキュリティ上の注意が必要なワークロードの管理（51%）にそれぞれ費やす工数を削減できたと報告しています。一方、統合ツールを使用していない回答者は、これらの業務に費やす工数の削減の点で著しく劣っています（それぞれ27%、42%、25%）。

この調査によると、単一のハイブリッドクラウド管理ツールを運用している中堅企業は、ライフサイクルの維持、サービスの中断と停止の解決、および不正なデータ漏洩の解決に要する時間を節約することにも成功しています。統合型のハイブリッドクラウドツールを使用している回答者は、データ漏洩の解決（29%減少）とセキュリティの管理（27%減少）に要する時間の節約効果が過去12か月で最大になったと報告しています。

## パフォーマンス面のメリット

効果的なハイブリッドクラウドセキュリティが重要なことは確かですが、ここで知っておくべき点が1つあります。それは、中堅企業によるハイブリッドクラウドの採用の増加を後押ししているのが、パフォーマンスの向上に対する競争上のニーズであるということです。統合管理ツールを使用している調査回答者は、過去1年間で運用が迅速化したこと（72%）に加え、インフラストラクチャコストの削減（55%）、収益性の向上（53%）、生産性の向上（52%）を報告しています。

ある調査回答者は、ハイブリッドクラウドアプローチについて次のように述べています。「ユーザーに影響を及ぼしたり、データを危険にさらしたりすることなく、インフラストラクチャを迅速にモダナイズして拡張できます。時間、労力、および複雑さが軽減されるため、ビジネスの革新にもっと集中できるようになります。」

過去1年間でパフォーマンスの平均向上率が最大となったカテゴリは次のとおりです。

- インフラストラクチャコストの削減（28%減）。
- 運用の迅速さ（27%増）。
- アウテージの件数（27%減）。
- 社員の生産性（26%増）。

ハイブリッドクラウド管理に統合ツールを使用している組織は、多くのメリットが得られることは予想どおりであったが、一部のメリットは期待をはるかに上回るものであったと述べています。統合管理ツールを使用したコストの削減を予想していた回答者の割合は46%であるのに対し、実際にコストを削減できたと答えた回答者の割合は、それを大きく上回る59%でした。これと同じことは他の分野にも当てはまります（表2を参照）。

全体的に見て、ハイブリッドクラウドとオンプレミスの両方にわたるIT環境の管理に単一のツールを使用している組織の回答者の方が、コスト効率の向上（55%）、柔軟性の向上（49%）、およびセキュリティの強化（49%）をハイブリッドクラウドの最大の利点として認識している可能性が高くなっています。

## まとめ

IDG の MarketPulse 調査の結果は、中堅企業がハイブリッド クラウドの導入を全面的に支持していることを明確に示しています。回答した組織の社内 IT チームは、平均で 4 ～ 5 種類のクラウド環境を管理しており、回答者 10 人中ほぼ 9 人（89%）が、今後 1 年間でクラウド対応インフラストラクチャへの支出を維持または増加させることを予想しています。

中堅企業によるハイブリッド クラウド採用を促進している要因は、IT とビジネスのパフォーマンスの向上に結び付いています。ただし、多くの組織は、一元化されたクラウド戦略を欠いているか、クラウドおよびオンプレミス環境を管理するためのツールが多すぎることが負担になっているか、その両方の問題に直面しているため、ハイブリッドクラウドを十分に活用できていません。

同様に、MarketPulse 調査の回答者がワークロードとアプリケーションをどこに配置すべきかを決定する際のも優先事項としてセキュリティを評価しているにもかかわらず、ほとんどの中堅企業はデータセキュリティのベスト プラクティスをまだ完全に実行していません。多くの組織、特に複数の管理ツールを使用している企業や機関では、ハイブリッドのクラウド環境全体のデータのバックアップや、セキュリティの監視を行う場合、予算や人員面にも限りがあります。

単一の統合ツールを使用してクラウド環境とオンプレミス環境を管理している回答者は 5 人中 1 人未満（18%）であり、一元化されたクラウド戦略と単一の管理ツールの両方をハイブリッド環境で使用している回答者の割合は、わずか 11% にとどまっています。セキュリティ対策が確立されている可能性は、後者のサブグループで高くなっています。

当然のことながら、単一の統合ツールを使用してハイブリッド クラウドを管理している中堅企業は、次のような期待を上回るメリットをいくつかの分野で報告しています。



コストの削減



リスクの軽減とレスポンス  
タイムの短縮



高速なバックアップ



拡張性の向上

ほとんどの組織は、IT 担当者がセキュリティの管理、セキュリティ侵害の解決、およびセキュリティ上の注意が必要なワークロードの管理に費やす時間を削減できたと報告しています。

一貫性のあるハイブリッド クラウド アプローチは、デジタル市場での成功に不可欠な柔軟性、敏捷性、および適応性を中堅企業にもたらします。統合管理ツールと一元化されたクラウド戦略は、クラウドおよびオンプレミス プラットフォームの両方でセキュリティを実現する、真に強力な重要なアクセラレーターであると言えます。

Dell Technologies Cloud は業界最先端のハードウェア上に構築され（VMware Cloud Foundation クラウド スタックを統合した VxRail ハイパーコンバージド プラットフォームなど）、複数のクラウド プラットフォームの円滑な導入を可能にし、一貫性のある運用エクスペリエンスを実現します。一貫性のあるハイブリッド クラウド プラットフォームによって、複雑なワークロード移行、作業のサイロ化、管理やセキュリティごとに異なるツール群、スキルとプロセス間のギャップなど、複数クラウドの導入および管理に伴う阻害要因を排除できます。Dell Technologies Cloud は、ハイブリッド クラウドの導入と管理をシンプルにして、IT プロフェッショナルがイノベーションを推進し、デジタル トランスフォーメーションを実現できるよう支援します。詳細については、[こちらをクリックしてください](#)。